

甲南大学動物実験委員会

甲南大学では、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」の施行及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等を踏まえ、科学的観点と動物愛護の観点から、動物実験の適正な実施及び実験動物の適正な飼養・保管を行っております。

< 学内規定・関連規則等 >

2007年4月1日から「甲南大学動物実験取扱規程」を制定しました。

2013年度

< 動物実験の実施状況 >

- ・申請課題数： 7件
 - 「高周波が皮膚に及ぼす影響に関する研究」
 - 「ホヤ組織に対するモノクローナル抗体の作製」
 - 「ホヤ卵内局在タンパク質に関する研究」
 - 「脳神経系・筋肉の形成と機能発現に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」
 - 「生分解性インジェクタブルポリマーを用いた細胞移植技術の開発に関する研究」
 - 「クルクミンナノ組織体の抗癌活性評価に関する研究」
 - 「摂餌制限動物における骨髄細胞反応の解析」

< 実験動物の飼養保管の状況 >

- ・使用実験動物：
 - マウス (Hos:HR-1 および Balb/c)
 - ウサギ (ニュージーランドホワイトおよびジャパニーズホワイト：ただし業者委託のために大学では飼養せず)
 - ラット (CrI:CD (SD)系：ただし共同研究のため大学内では使用せず)
 - イヌ (ビーグル犬：ただし共同研究のため大学内では使用せず)
- ・使用 (飼養) 頭数：
 - マウス：24 匹 (14 匹は、次年度も継続飼育)
 - ウサギ：5 羽 (ただし業者委託のために大学内では使用せず)
 - ラット：20 匹 (ただし共同研究のため大学内では使用せず)
 - イヌ：6 頭 (ただし共同研究のため大学内では使用せず)

< 施設等の維持管理の状況 >

- ・飼養施設： 1箇所 (F-1号館 305 動物実験室 2)
- ・実験室： 1箇所 (F-1号館 314, 311 実験室)
 - 理工学部生物学科の14号館移転に伴い、7号館 B-405 の飼養施設 (神保許可 (届出) 第93-11号) ならびに7号館 B-412 動物実験室は9月30日をもって廃止致しました。

< 動物実験等に関する安全管理の状況 >

- ・遺伝子組換え、病原体、放射性物質等を用いた動物実験は実施していません。

- ・今年度、動物の逸走等の事故は報告されておられません。

<教育訓練の実施状況>

- ・実施日時： 2013年4月26日および5月9日
- ・出席者： 12名（実験責任者となる可能性のある教員および、今年度動物実験に関わる学生全員が参加）
 - ・甲南大学動物実験取扱規程、動物実験を適正に行うために必要な諸注意、動物実験の申請および実験計画書、標準操作手順(SOP)等について説明と質疑応答を行いました。今年度の申請課題は、抗体作製の外部委託があり、それらは委託先の動物愛護に対する取組等を確認致しました。製薬会社の研究施設との共同研究でイヌおよびラットの使用がありますが、専門的動物実験施設での非常に良く管理された施設での実施計画でした。教育内容の多くの部分が法律の概要説明と遵守の指導および申請書記入上の注意事項等の説明で、特に、新任の教員に対して種々の確認・伝達事項ならびに注意喚起を行いました。